

## OECD日本イノベーション教育ネットワーク 生徒国際フォーラムに参加しました！

本校は、国内外の高校生らが2030年に予想される国際的な課題に向けて交流を深め、その解決を図るため、高校・大学・企業などの教育関係者らで構成する「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」(事務局・東京大学)に参画しています。2015年に参加し、これまでの活動としては、他の和歌山県内の参画校とともに、カナダを訪問し、現地大学や和歌山県人会を訪れたり、本校独自の取り組みとして和歌浦などの観光資源を活かし、和歌山の観光産業に高校生としていかに関わるかを講師の方々に学んで話し合い、地元の企業を訪問したり、外国からの訪問客に観光地を英語でガイドしたりする活動を行ってきました。



本校の取り組みについて発表する萩原さん(右側)と小嶋さん(左側)

その集大成として去る8月2日～4日にかけて、東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた「生徒国際イノベーションフォーラム2017」に2年生国際交流科の萩原風花さんと小嶋菜月さんが参加しました。県内からは本校を含め県立5高校から46人が参加。福井や広島のほか、ドイツ、トルコなど海外7カ国を含めた総勢約240人の高校生らとともに、移民・難民問題や今後の教育のあり方などを意見交換するとともに、本校の取り組みの発表も行いました。

小グループによる討議では、バラク・オバマ前米大統領の異父妹で、ハワイ大学平和研究所長のマヤ・ストロさんが進行役として参加し、議論を通じて各国の高校生たちと交流を深めました。



コーディネーターのマヤ・ストロさんと

最終日には宣言のとりまとめに向け、国内外の約240人の高校生が7グループに分かれ、3日間の活動を踏まえた発表と意見交換に臨んだのち全体フォーラムを行い、「私たちのつながりを確固たるものにし、地球全体のコミュニティーを作ろう」などとする大会宣言をまとめて閉幕しました。以下は参加した生徒の感想の抜粋です。

“私はこのフォーラムで、勇気を持つこと、そして何事にもまずトライすることの大切さを学びました。このフォーラムは私自身が変わるチャンスをくれました。また、この経験を通して英語がより好きになり、私の視野を広げることができました。私は言語や文化の違いがあっても人は互いにわかり合えると感じました。そのためにも、さらにグローバル化する社会に向けて、私はもっと英語力を伸ばしていきたいです。これからも、もっとたくさんの英語のイベントなどに挑戦し、より視野を深く広くしていこうと思います。”



参加者全員でハイチーズ！